

学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立八尾支援学校
校長名	古川 綾子
准校長名	山崎 夏生

開催日時	令和7年 2月25日(火) 10:00 ~ 11:40
開催場所	本校 図書室
出席者(委員)数	5名
出席者(学校)数	10名
傍聴者	2名
資料	第3回次第、令和6年度学校経営計画及び学校評価、令和7年度学校経営計画(案)、各学部3学期授業アンケート結果、地域支援整備事業の推進校及び地域における特別支援教育のセンター校として
備考	

議題等(次第順)

- 開式の辞
- 校長挨拶
- 報告
 - ・令和6年度学校経営計画の評価について
- 協議
 - ・令和7年度学校経営計画(案)について
- 報告
 - ・3学期授業アンケート結果について
 - ・地域支援整備事業の推進校及び地域における特別支援教育のセンター校として
- 質疑応答
- その他
- 准校長挨拶
- 閉式の辞

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- 校長挨拶
 - ・2学期から3学期にかけて作品展と参観が行われ、たくさんの保護者に来校いただいた。現在卒業式に向けて準備や練習が進んでいる。
 - ・校務では、校務パソコンのシステム変更のための作業が行われている。更新に伴ってトラブル等も発生しており、対応に追われている。4月までには落ち着いてスムーズに校務を遂行できるように対応していきたい。
 - ・今年度は、公開授業・研究協議を年2回行った。下校時間の変更など保護者の協力のもと無事に終えることができた。ICTの活用、キャリア教育の観点などから教材の工夫が行われ、とても良い機会となった。
 - ・校時変更について、小中高の時間を整えるために行っている。変更することで学部間交流や特別教室の調整をスムーズに行うことができる。今後はプレ施行を経ての微調整を行う。
 - ・来年度児童生徒数が増加し、教室もかろうじて運用している状態。通学バスやデイサービスの増車を見越し、古くなった倉庫の撤去を行い、グラウンドに車を入れないためにも整備を進めていく。
- 報告
 - 【令和6年度学校経営計画の評価について】
 - ・全体を通じて◎が増えたことは、先生方の日々の頑張りの賜物である。ICTの活用について、本校のICT教育が活性化してきたことに伴い、機器のアップデートや数の確保が課題である。ストレスチェックにおいては、健康リスクが約10ポイント減少した。また男女別の休養室も設置することができた。高等部においては、生徒数減少に伴って、次年度からの縦割り授業に向けて全教科でプレ施行を行った。
- 協議
 - 【令和7年度学校経営計画について】
 - ・全体を通して、無駄をなくすことで時間短縮を行い、子どもの情報をより詳細に伝えられるための同僚性を大切にしていきたい。令和7年度より新校時が始まるので、検証を行いながら進めていく。中学部ではニーズ別自立活動やクラブなど、高等部では全教科縦割り授業を行い食育も進める。学部間交流も引き続き行う。

●報告

【3学期授業参観アンケート結果について】

・肯定的な意見が多かったが、2学期に続き回収率にはばらつきがあった。アンケートの信ぴょう性を高めていくためにも、回収率を上げていかなければならない。ブログでの発信やフォームの改善を行う必要がある。また、教員へもアンケートの5つの観点を周知し、意識した授業展開を行うことができるようにする必要がある。

●報告

【地域支援整備事業の推進校及び地域における特別支援境域のセンター校として】

・本校の地域支援は3名おり、東大阪、柏原、八尾、本校で連携して行っている。最近では府立高校への要支援の生徒の増加に伴い、需要が増加している。また、リーディングスタッフ勉強会も行い、地域の学校の先生方のスキルアップも行っている。次年度も目標をもって取り組んでいきたい。

●質問及び回答

《令和6年度学校自己診断結果について》

Q：農福連携について、具体的にどんな取り組みをしているのか。

A：学校近隣の事業所へ行き、大根と白菜の種植えと苗の生育、定植、収穫を協力して行い、収穫した野菜を学校給食で使用した。

Q：保健室で、児童生徒からどのような悩み相談があるのか？

A：保健室に養護教諭が2名いるが、子どもたちは担任や学年教員への相談がメイン。他には、いじめアンケートを実施し、発信のあったものについて、担任、生徒指導主事等で適宜対応している。

Q：縦割りの学習班での授業について、心配要素とは？

A：授業の引き継ぎ等で子どもの情報共有がうまくできるかが心配。連携方法について詰めていきたい。

《令和7年度学校自己診断について》

Q：高等部の縦割りについて、6グループの生徒は固定するのか。

A：基本的には固定しており、教科特性に応じてグループ数や班編成は変更している。

Q：グループが変わることで会議が増えるのでは？生徒の実態把握を密に行えるのか？

A：高等部全体で中学部の1学年程度という小規模なので情報交換を行いやすい。

《地域支援整備事業の推進校及び地域における特別支援境域のセンター校として》

Q：地域支援は、子どもに対する支援のスキルだけではなく、それぞれの学校の背景も踏まえた助言を行うスキルが必要。人材育成はどのようにしているのか？

A：アセスメント資料をもとに細かな打ち合わせを行い、相談スキルの動画を見てから行う。傾聴と同意を心がけるよう伝えている。

【准校長あいさつ】

・様々な業務削減について、ICT機器をうまく使うことで改善できると考える。そのため、誰でも使いこなせるようにコミュニケーションをとりながら進めてく。

・施設設備についても、少しずつ工事を行うなど、改善を行っている。今後も本庁と連携しながら進めていく。